

高浜4号機が自動停止

中性子量急減の警報出る

関西電力は二十日、営業運転中の高浜原発4号機（高浜町）で、核分裂の際に発生する中性子が急激に減少したため、原子炉が自動停止したと発表した。原子力規制庁によると、原子炉の冷却は正常に行われ、放射線量を測るモニタリングポストなどの値に異常はなく、周辺環境への影響はない。関電と規制庁が原因を調査している。

同日午後三時二十一分、原子炉容器の周りにある四つの中性子検出器のうち二つ以上で、規定値から7%以上の減少が確認され、警報が出た。県は原因として、検出器の不具合や、出力を制御する制御棒が原子炉内に落下したことなどが考えられるとしている。検

出器は今月二十六日に正常に作動することを確認していた。

同様のトラブルは、高浜3号機で一九八八年に起きたことがある。

高浜4号機は二〇二二年十月二十一日に原子炉起動を予定していたが、異物混入によるトラブルで延期。

同十一月四日に原子炉を起動し、十二月一日から営業運転に入っていた。高浜4号機は一六年に、発送電の作業中、発電系統のトラブルで緊急停止したことがある。

高浜4号機は二五年に運転開始から四十年を迎えるため、関電は二十年の運転期間延長を原子力規制委員会に申請する方針を示している。